

特定非営利活動法人
アユス仏教国際協力ネットワーク
2022 年度会員総会



2022 年 6 月 16 日 (木)
於：長専院／オンライン

次第

開会の言葉
理事長挨拶
定足数の確認
議長選出
議事録署名人選出
議案審議
議長解任
閉会の言葉

議案

第一号議案 2021 年度事業報告／決算案
第二号議案 2022 年度事業計画／予算案
第三号議案 役員改選

その他 報告

資料

2021 年度事業報告
2022 年度事業計画案
2021 年度監査報告書
2022 年度役員／専門委員
2021 年度決算報告
2022 年度予算案

2021 年度アーユス事業報告

2021 年度は、残念なことに「平和人権支援事業」(旧) や『街の灯』支援事業で協力している場所において、紛争や国家的暴力が頻発した。ミャンマーでは 2 月に国軍がクーデターを起こし、その後も民間人への激しい暴力が続いている。またパレスチナ・ガザ地区では、5 月に 2 週間以上にわたりイスラエルによる攻撃が続いた。アフガニスタンでは、米軍撤退にともない 8 月にイスラーム主義勢力ターリバンが暫定的に政権を奪取。アフガニスタン国内では対立が激化するだけでなく、市民の生活も困窮している。アーユスは、これらの状況に対して、人道支援やアドボカシー活動に資金面で協力し、国内での要請行動に参加、そして現地の状況を広く知ってもらうためにもセミナーの開催などを行った。また 2022 年 2 月に始まったロシアのウクライナ侵攻に対しては、ウクライナ国内での人道支援活動に協力した。

その間も、NGO 支援事業は予定通りに遂行され、また新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) により対外的な取り組みは制限されたものの、オンライン配信を活用して教育交流事業も行われた。

『街の灯』支援事業では、新規 2 団体が加わり合計 4 団体に 3 年間継続支援の通常枠で協力し、今尚多くの人たちが取り残されている現実を知り伝えることができた。また単年支援の特別枠として、2020 年度に続き、COVID-19 の影響で困難な状況に直面している国内外の事業や、COVID-19 の感染拡大で支援が届きにくい人々に対する緊急援助などに協力する「コロナ禍を乗り越えるための支援」を実施。国内外で取り残されている人々への支援活動 4 事業に協力できた。

一方で、東日本大震災被災地支援は、福島の子どもの保養合宿は 2021 年度に続き中止。代わりに、FoE Japan が実施する「ぼかぼかプロジェクト」と、報道量や関心が減っている福島第一原発事故の被害状況を可視化させ国内外に伝える「ふくしまミエルカプロジェクト」に資金協力を行った。

「アーユス賞」は予定通り実施され、3 月には授賞式を会場とオンライン配信のハイブリッドで開催。受賞者の思いを広く伝えようと、別途、受賞者のトークイベントを開催した。

教育交流事業は、オンライン配信を基本に展開したが、状況をみながら対面での集まりも開催。上記のミャンマー、アフガニスタン、パレスチナについては、

いち早く現地の状況を知らせ支援につながる呼びかけをおこなった。また、テラエナジー株式会社との共催によるシリーズ「お寺と 100 年後の未来」は、ジェンダーをテーマに開催し、これまで以上に大きな反響を得た。

一方で恒例の春合宿や国内スタディツアーは中止せざるを得ず、東海地域や関西地域の会員・関係者との定例会や、コリア事業の現地訪問など、交流からの学び合いの場作りは課題として残された。

組織運営の面では、今後の方向性の議論と検討を役員と事務局を中心に重ね、内部に中期計画委員会を設置して、2022 年度からの中期計画を策定した。

ファンドレイジングにおいては、対面での渉外はできなかったが、オンラインイベントなどを通じての新しい支援者との出会いは少しずつであっても生まれている。また SDGs などをテーマにした講演の依頼がこれまで以上に多くあり、社会課題を切り口に仏教関係者との学びの場を持てたのは、アーユスの経験の蓄積にもつながった。

1. 国際協力等を行う NGO・市民団体への助成・研修・表彰等の支援、及び紛争・災害時の緊急救援 (NGO 支援事業)

1) NGO 組織強化支援

国際協力 NGO が自立した経済基盤を築き、円滑に活動できるように、運営管理や事業遂行の知識、技術、ノウハウを身につけられるように、組織強化に資する活動を支援する。

▼報告

2021 年度からは、支援対象期間が 3 年から 2 年に短縮され、支援金の上限を一律 100 万円に変更。NGO の国内事務所で働く人材の人件費支援から組織強化に資する取り組みへの支援とした。2020 年度におこなった選考の結果、「アクセプト・インターナショナル」への支援を開始。「ピースデポ」への支援は継続して、無事に 3 年目を終了した。

なお新規支援の募集に際して、最終選考ではオンラインによるプレゼンテーション／質疑応答の機会を採り入れた。

2) 『街の灯』支援

誰一人取り残さない社会をめざす「持続可能な開発目標 (SDGs)」の概念を尊重し、日本の国内外で「光があたらない」活動に取り組む NGO / NPO に協力する。

2021 年度は、COVID-19 の影響で継続が困難に

なっている事業や、緊急的な対応が迫られている活動の支援を目的とした「コロナ禍を乗り越えるための支援」として特別枠での協力も実施した。

▼報告

【通常枠】支援対象を国際協力 NGO および日本国内で活動する NPO の事業を対象とする。選考の結果、次の 2 事業に新たに協力することになった。

- ・「水俣市内外での水俣病患者を対象にした「相談サロン」の実施」水俣病センター相思社
- ・「モザンビーク共和国ガーボベルカド州テロ被災者支援及び平和教育活動」モザンビークのいのちをつなぐ会

2020 年度から協力している以下の 2 事業は継続支援した。

- ・「アフガニスタン・ピースアクション ～平和教育と地域住民による平和の取り組み支援～」平和村ユニテッド
- ・「ミャンマーでの人権侵害における日本のビジネス関与の実態把握と回避」メコン・ウォッチ

【特別枠】コロナ禍を乗り越えるための支援は、以下の 4 事業に対して行った。

- ・「コロナ禍における日本の児童労働のリスク削減事業」ACE
- ・「レバノン国内の脆弱なパレスチナ難民世帯への食料支援」パレスチナ子どものキャンペーン
- ・「生活が困窮している難民申請者へのさらなる物資・住居支援の拡大」難民支援協会
- ・「東ティモール・コロナ禍で適切な医療サービスを受けられない住民と感染リスクに晒される洪水被害者への感染対策を通じたプライマリヘルスケア強化事業」シェア＝国際保健協力市民の会

3) 時局対応支援

国際協力 NGO が紛争や自然災害時に、被災地での救援・復興活動を迅速にかつ円滑に進められるよう、資金面や物資調達などにおいて支援を行う。また国際協力活動を進めるために必要と思われる提言・キャンペーン活動の実施にも協力する。

▼報告

●ミャンマー・クーデター後の緊急救援およびアドボカシー活動

- 「ミャンマーの民主化を求める市民活動を支える募金」をおこない、以下の事業に協力した。
- ・「日本に暮らす日ミャンマー人との連携で、不服従運動に従事している人たちやミャンマー国内で避難民になっている人たちへの医薬品などの支援活動」日本ビルマ救援センター

- ・「タイ国境沿いに逃れる避難民支援」International Network of Engaged Buddhists INEB
- ・「日本からの援助やビジネスが国軍を利さないためのアドボカシー活動」メコン・ウォッチ
- ・「カレン族居住地域での国内避難民への緊急支援活動」インターバンド
- ・「地雷犠牲者に対する緊急支援」地雷廃絶日本キャンペーン

その他、メコン・ウォッチが中心となって展開するアドボカシー活動「#ミャンマー国軍の資金源を断て」に参加。日本からの公的資金や企業活動が、国軍の資金源とならないよう、下記の活動をおこなった。主な参加団体は、FoE Japan、武器取引反対ネットワーク NAJAT、日本国際ボランティアセンター。

- ・関係企業／省庁への申し入れ（5 回以上）
- ・外務省／官邸前でのアクション（8 回）
- ・オンラインセミナー（教育・交流事業参照）
- ・声明／共同要請書（団体支援参照）

●パレスチナ・ガザ地区 緊急支援

5 月に 2 週間あまり続いたイスラエルによるガザ地区攻撃の被災者への緊急救援に協力した。

- ・「物資支援・心の支援・リハビリテーション病院支援」日本国際ボランティアセンター

●ロシアのウクライナ侵攻

3 月中旬に「ウクライナ緊急救援募金」を立ち上げて以下の 2 つの取り組みに協力した。

- ・「ウクライナ ジトーミルでの医薬品などの緊急物資支援」チェルノブイリ救援・中部
- ・「ウクライナ ウジホロドでの避難民への緊急物資支援」日本チェルノブイリ連帯基金

4) 東日本大震災・脱原発支援事業

東日本大震災から 10 年以上が経ち、被災地への関心度が低くなる中、東北（特に福島）で起きたことを自分たちの問題として受け止め、原発に依存しない持続可能な社会の実現に向けた取り組みを支援する。

▼報告

- ・福島県猪苗代町で開催される「ぼかぼかプロジェクト」に協力（国際環境 NGO FoE Japan）
- ・福島第一原発事故の被害を可視化し福島の状況を様々な形で伝える「ふくしまミエルカプロジェクト」に協力（国際環境 NGO FoE Japan）
- ・営農型ソーラーシェアリングの取り組みを生かした

活動への今後の協力体制についての協議（二本松有機農業研究会）

5) アーユス賞

日本の国際協力 NGO 活動で多大な功績のあった NGO 関係者に NGO 大賞（茂田賞）、今後の国際協力 NGO 界を支えていくことが期待される有望な人材に対して NGO 新人賞、仏教の縁に基づいた国際協力や地域作りを志しアーユスの活動に対する多大な貢献や協力があつた寺院もしくは個人に対して特別功労賞を授与する。

▼報告

●受賞者

- ・アーユス NGO 大賞 下澤嶽さん（静岡文化芸術大学教授、ジュマ・ネット共同代表）
- ・アーユス特別功労賞 佐山哲郎さん（浄土宗 西念寺住職）
- ・アーユス NGO 新人賞 浅木麻梨耶さん（シャンティ国際ボランティア会ラオス事務所コーディネーター）、高橋英恵さん（国際環境 NGO FoE Japan 気候変動・エネルギー担当）

●授賞式

3月8日 光明寺（東京都港区）
オンライン配信とのハイブリッド形式で開催。

6) 団体支援

●会員（計 11 団体）

移住者と連帯する全国ネットワーク、SDGs 市民社会ネットワーク、開発教育協会、関西 NGO 協議会、カンボジア市民フォーラム、国際協力 NGO センター、シーズ・市民活動を支える制度をつくる会、名古屋 NGO センター、日本 NPO センター、仏教 NGO ネットワーク、認定 NPO 法人振興会

●賛同（カッコ内は呼びかけ団体）

- ミャンマー関連（計 10 件）
- ・【共同要請書】ミャンマー国軍を利する日本政府の経済協力事業を直ちに停止するよう求めます（メコン・ウォッチ、アーユス仏教国際協力ネットワーク）
- ・【共同要請書】ミャンマー国軍を利する日本政府の経済協力事業を直ちに停止するよう求めます（メコン・ウォッチ、アーユス仏教国際協力ネットワーク）
- ・【賛同】ミャンマーに関する共同声明（JANIC）
- ・【賛同】KDDI グループと住友商事は、ビルマの非合法政権による人権侵害を助長しないでください（ALTSEAN-Burma）

※以下、全てアーユス仏教国際協力ネットワーク、国際環境 NGO FoE Japan、日本国際ボランティア

センター、武器取引反対ネットワーク、メコン・ウォッチ 5 団体による共同活動

- ・【共同要請書】日本政府はミャンマーに対する経済協力事業の全面的な見直しを
- ・【共同要請書】ミャンマー：クーデターから半年 日本政府は国軍の暴挙を止めるための具体的な行動を
- ・【共同要請書】ミャンマー：クーデターから 10 ヶ月 日本政府は国軍との経済的関係を断ち切ってください
- ・【共同要請書】ミャンマーでビジネスを継続している企業に対してミャンマー国軍の資金源を確実に断つ措置を講じるようエンゲージメントを求める要請書
- ・【署名活動】日本政府はミャンマー国軍の暴挙を止めるために、日本から国軍への資金の流れを止めてください。
- ・【署名活動】日本政府、ENEOS、三菱商事はイェタグン・ガス田開発から責任ある撤退を

○その他（5 件）

- ・JVC カンボジア 40 年活動記録映像制作委員会
- ・【日本の NGO 団体による声明】イスラエルおよびガザに一刻も早い停戦を（日本国際ボランティアセンター、パルシック、パレスチナ子どものキャンペーン、ピースウィンズ・ジャパン）
- ・重要土地調査規制法案に関する緊急声明への賛同（表現の自由と開かれた情報のための NGO 連合）
- ・日本政府への要請＝新型コロナウイルス感染症に関わる知的財産権免除支持への政策転換を＝（「新型コロナウイルスに対する公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会）
- ・退避を求めるアフガニスタン人受け入れに関する要請（シャンティ国際ボランティア会、難民を助ける会、パスウェイズ・ジャパン、ピースウィンズ・ジャパン）

2. 国際協力及び社会貢献などに関する広報、普及啓発、教育研修及び相互交流（教育・交流事業）

1) 研修・研究・啓発

世間的にも大きく注目されたミャンマー、アフガニスタン、パレスチナについては、NGOとの協力関係を活かし、いち早く現地の状況を知らせ、支援につながる呼びかけを行なうことができた。セミナーのアーカイブを充実させるなどの工夫をして、関心が低下したあとも、アユスが光を当て続けていく必要がある。

仏教界でも関心の高いSDGsについては、教団関連の組織などからの登壇や執筆の依頼があるが、各寺院など身近なところからできる具体的な提案も同時にしていけるようになることが課題である。

コロナ禍のなかで教育・交流事業の活動の中心となったオンラインセミナーでは、専門委員にコーディネーターをお願いしたり、理事に企画・登壇してもらうことで、参加者・支援者の幅も大きく広がっている。企画者・参加者ともに「アユスという場があったよかったです」と感じられる流れをつくりたい。

▼『街の灯』支援事業の支援プロジェクトの理解、「光のあたらないところに光を」のイメージ具体化

『街の灯』トークを実施し、アユスが「光が当たっていない」と考え協力する支援事業を紹介した。

ミャンマー、アフガニスタン、パレスチナは図らずも注目されてしまったが、継続して関心を持ち続けてもらうことが重要で、ミャンマーについてはパートナーNGOとセミナーを継続して実施できた。

▼持続可能な社会の実現を念頭に置いた「お寺でできるSDGs」の事例紹介

「お寺と100年後の未来」のセミナー後にフィールドスタディを行なうなど具体的に現場とつながる機会を設けたり、SDGsでも注目されているジェンダーについてお寺という足元から考える機会をつくった。寺院関係者や会員とのコミュニケーションを増やし、事例収集に努めたい。

▼東海・関西の会員参加の場づくり

地域の枠を意識した会員・支援者の交流の場は、昨年に続き持つことができなかったが、関西のNGO・会員を訪問して次年度以降企画できるよう下準備をおこなった。

▼国内スタディツアー・フィールドスタディの可能な範囲での実施

以前から予定していたもの（「お寺と100年後の未

来」のフォローアップとしての青梅訪問など）は実施できたが、広く呼び掛ける対面の企画は実施しなかった。少人数であっても企画を準備しておき、タイミングを見計らって実施することが重要。

(1) セミナー／勉強会／交流会

●主催事業

・オンラインセミナー「ミャンマーの民主化と平和を求める市民とともに」（全4回）

第1回「在外ミャンマーの人びとと動く民主化支援」

実施日：4月29日

ゲスト：中尾恵子さん（日本ビルマ救援センター）／宮地葵さん（ミャンマー（ビルマ）の民主化を支援する関西学生ネットワーク）

第2回「30年にわたる民主化支援から見える現在のミャンマー」

実施日：5月10日

ゲスト：中尾恵子さん／雛谷優さん（日本ビルマ救援センター）

第3回「ミャンマー国軍のビジネスと日本の私たち」

実施日：5月24日

ゲスト：木口由香さん（メコン・ウォッチ）

第4回「タイミャンマー国境での支援活動から見える課題とこれから」

実施日：5月27日

ゲスト：ソムブーン・チュングプランプリーさん（INEB）

・総会ミニ報告

「テロを止める、紛争を解決する」

実施日：6月16日

報告者：永井陽右さん（アクセプト・インターナショナル）

・緊急報告会

「急変するアフガニスタンの現場から」

実施日：8月26日

スピーカー：小野山亮さん（平和村ユナイテッド）／サビルラ・メモラワルさん（Your Voice Organization）

・オンラインセミナー

「911から20年：『テロとの戦い』とその後」

実施日：9月9日

スピーカー：小野山亮さん／加藤真希さん（平和村ユナイテッド）

・オンラインセミナー

「緊急報告 危機が続くパレスチナと支援の現場」

実施日：9月17日

スピーカー：今野泰三さん（中京大学）／大澤み

- ずほさん（日本国際ボランティアセンター）／手島正之さん（パレスチナ子どものキャンペーン）
- ・NGO 勉強会 「国際協力 NGO が行う国内活動の可能性と課題を考える」
実施日：10月22日
モデレーター：神田浩史さん（泉京・垂井）
事例発表者：山本裕子さん（SHARE）、坂西卓郎さん（PHD 協会）、加藤英美さん・小栗清香さん（パルシク）、甲斐田万智子さん（国際子ども権利センター）
 - ・『街の灯』トーク「コロナ禍を生きる」
第1回「コロナ禍が続く中、難民申請者に必要な支援とは」
実施日：12月15日
ゲスト：松田寛史さん（難民支援協会）
 - 第2回「経済危機のレバノンを生き抜く」
実施日：12月21日
ゲスト：田浦久美子さん（パレスチナ子どものキャンペーン）
 - 第3回「あなたのアルバイトはだいじょうぶ？ 日本にもある児童労働の現状と課題」
実施日：1月18日
ゲスト：岩附由香さん／太田まさこさん（ACE）
 - 第4回「コロナ禍でも誰ひとり取り残さない 東ティモールで続く健康を守る活動と人づくり」
実施日：1月25日
ゲスト：巢内秀太郎さん（シェア＝国際保健協力市民の会）
 - ・アユスのお坊さんに出会う～ Ayus Bouz Collection
第5回「サヤマテツロウを検索せよ」
実施日：2月21日 会場：西念寺（東京都台東区）＋オンライン配信
ゲスト：佐山哲郎さん（西念寺住職）
 - ・未来への挑戦 アユス NGO 新人賞受賞者に聞く
実施日：3月15日
ゲスト：浅木麻梨耶さん（シャンティ国際ボランティア会）、高橋英恵さん（国際環境 NGO FoE Japan）

●共催イベント

- ・お寺と100年後の未来
共催：Tera Energy 株式会社
第2回フォロー フィールドスタディ「青梅ツアー」
実施日：6月11日
案内：中島大輔さん（中島林業）
- 第3回「お寺とジェンダー その新しいカタチとは？」

実施日：3月10日
ゲスト：瀬野美佐さん（女性と仏教・関東ネットワーク）、くぼいなみさん（僧侶家族）、中村絵乃さん（開発教育協会）

・もっと知りたい！アジアンコーヒー 2021

実施日：11月23日
会場：経王寺（東京都新宿区）
登壇者：中山るりこさん（ロータスプロジェクト）、寺田俊さん（APLA）、小川晶子さん（シャプラニール）、赤井希さん（PARCIC）

・ミャンマーセミナー（共催：FoE ジャパン、日本国際ボランティアセンター、武器取引反対ネットワーク、メコン・ウォッチ）

「クーデターから7ヶ月 現地情勢と日本の経済支援を振り返り、これからを考える」

実施日：9月2日
登壇者：渡邊さゆりさん（マイノリティ宣教センター）／ミンスイさん（在日ビルマ市民労働組合）／木口由香さん（メコン・ウォッチ）／波多江秀枝さん（FoE Japan）

「クーデターから10ヶ月、ミャンマーの今 なぜ止まらない日本からの資金」

実施日：12月13日
登壇者：（ビデオメッセージ）キンオーンマーさん（民主化・人権運動家）／伊勢憲治さん（北九州市立大学）／渡邊さゆりさん（マイノリティ宣教センター）／木口由香さん（メコン・ウォッチ）／波多江秀枝さん（FoE Japan）

「ミャンマー連邦記念日 2022 オンライン集会×署名提出報告」

実施日：2月12日
キャンペーンからの報告と宗教者をはじめとする賛同者や活動家によるトークリレー

「日本関与のイエタグン・ガス田からの資金を問う」

実施日：3月22日
登壇者：木口由香さん（メコン・ウォッチ）、波多江秀枝さん（FoE ジャパン）

・ミャンマーランチ勉強会

実施日：9月27日、10月11日、10月25日、11月8日

・仏教者の責任と可能性（共催：INEB）

第1回「ミャンマーにおける仏教者の功罪と可能性 民族主義と民主主義」

実施日：3月4日
ゲスト：アラン・セノークさん（曹洞宗国際布教師、パークレー禅センター、INEB）

●協カイベント

- ・「第20回南北 코리아 と日本のともだち展」
主催：南北 코리아 と日本のともだち展実行委員会
実施日：6月1日～3日
- ・東北アジア大学生平和交流プログラム
主催：KOREA こどもキャンペーン
勉強会 実施日：8月25日、11月7日、11月7日、
12月4日、1月12日
関西フィールドワーク「鶴橋、コリアン タウン
と朝鮮」実施日：2月12日 案内：李明哲さん (KEY)
関東フィールドワーク「さいたまと朝鮮」
実施日：3月2日
案内：小川満さん (埼玉 코리아 21)
- ・ミャンマーに平和を 祈りと連帯の集い
主催：ミャンマー祈りと連帯のネットワーク
第1回 実施日：6月24日
会場：光明寺 (東京都港区)
第2回 実施日：3月6日
会場：天光院 (東京都港区)
- ・連続セミナー「気候危機と水害：ダムで暮らしは守
れるか？」
主催：「気候危機と水害」連続セミナー実行委員会
協力：国際環境 NGO FoE Japan、メコン・ウォッ
チ
第5回「この川にダムはいらない ～生き物の宝庫
石木川とこうぼる暮らし」
実施日：5月18日
ゲスト：松本美智恵さん (石木川守り隊)
第6回「ハッ場ダムが洪水防止？～2019年、1日
で満水となったダムはなぜ完成に68年もかかっ
たのか」
実施日：9月10日
ゲスト：渡辺洋子さん (ハッ場あしたの会)
第7回「生命を守るはずのダムによって失われた命
～愛媛県肘川ダム緊急放流裁判が問いかけるもの」
実施日：10月26日
ゲスト：入江須美さん、宮本幹江さん
- ・龍谷大学世界仏教文化研究センターへの協力
緊急報告会「仏教徒として何ができるのか ～ミヤ
ンマー人道支援活動から」
実施日：8月3日
司会：嵩満也さん (龍谷大学)、登壇者：ソムブー
ン・チュングブランプリさん (INEB)、コメント：
枝木美香、小武正教さん (メラウーキャンプ教育
支援の会)

龍谷大学パネル展 日緬パネル展スペシャルトーク
「ミャンマー支援活動への思い」

実施日：11月4日

司会：嵩満也さん (龍谷大学)、登壇者：枝木美香、
大河内秀人さん (見樹院)、ジョナサンワッツさん
(孝道教団国際仏教交流センター)

・エンゲイジド・ブディズム研究会「仏教徒 SDGs
の実践 ～アメリカ、東南アジア、日本の事例を通
して」

実施日：3月24日

司会：嵩満也さん (龍谷大学)、登壇者：中垣顕實
さん (NY 平和ファウンデーション)、枝木美香、ジ
ョナサンワッツさん (孝道教団国際仏教交流センター)

(2) 合宿

COVID-19 の感染防止を鑑みて実施せず。

(3) スタディツアー

COVID-19 の拡大にともない実施できず。

(4) 寺院・地域との協働

●地域の仏教会／宗派組織との協力

行事参加の機会がなく直接の活動報告を行う機会
がなかったものの、継続的なご支援をいただいた。

- ・全日本仏教会：国際交流審議委員として会議に出席
(枝木)
- ・浄土宗平和委員会：専門委員として会議に出席 (枝
木)
- ・八王子市仏教会：総会 (5/27) およびねはん会のつ
どい (2/22) での募金呼びかけ

●物販関係

- ・経王寺アースデイ (3月お彼岸)

2) 開発教育事業

(1) ニュースレター

131号 「911 から 20年 暴力の連鎖を止めるには」
／ TOPIC 青梅ツアー報告／永野三智さん／吉田尚英
さん

1号の発行にとどまった。

(2) 施本

年4回発行。注文数は横ばい。

3) 普及事業

(1) グッズ販売

対面の機会がなく、支援者向けの注文販売が中心と

なった。年4回の施本の案内にあわせてグッズの販
促をおこなったため、小口注文は増えた。

2) 出版

実施せず。

(3) 執筆・講演

次の表の通り、執筆講演を行ったほか、『築地本
願寺新報』に編集委員として参加。経王寺の寺報に
NGOの紹介を連載。

月	テーマ	派遣先/掲載先
7月	【執筆】ミャンマー祈りと連帯のつど い	キリスト者平和ネッ トNL
9月	【講演】「たくさんの人を取り残して いるこの世界の片隅から 活動を通 じて見えてきたSDGsのいま」(11 月発行「まいとりー」に講演録を掲 載)	ILAB(国際仏教文 化を学ぶ会)オン ライン仏教文化交 流会
9月	【講演】「SDGsと仏教 誰一人取り 残さない社会とは？」(3月発行『現 代宗教研究56号』に講演録を掲載)	日蓮宗現代宗教研究 所
10月	【講演】まだまだ大変なSDGs	女性と仏教関東ネッ トワーク
11月	【事例発表】わたしたちの課題として 向き合うミャンマー	龍谷大学
12月	【講義】国際協力NGO活動 一平和 教育活動を事例にー	昭和女子大学
3月	【事例発表】仏教とSDGs	龍谷大学

3. 組織運営・広報

1) 組織運営

(1) 総務/労務/経理など

・会員総会

2021年6月16日(会場:アユース仏教国際協力ネッ
トワーク事務所)

第一号議案 2021年度事業報告

第二号議案 2021年度決算報告

第三号議案 2022年度事業計画案

第四号議案 2022年度予算案

・理事会 下記の通り滞りなく開催された。

1回目 5月19日

第一号議案 2020年度事業報告・決算

第二号議案 2021年度事業計画・予算案

第三号議案 2021年度『街の灯』支援事業特別枠
の選考

2回目 9月30日

第一号議案 アユースの進退と今後の方向性に向
けての提案と審議

第二号議案 アユース賞受賞者の選考・決定(大賞・
特別功労賞)

3回目 11月29日

第一号議案 2022年度「NGO組織強化支援」の
選考・決定

第二号議案 2021年度「アユース賞」新人賞の選
考・決定

第三号議案 2021年度上半期中間報告・決算

第四号議案 中期計画委員会の報告と審議

4回目 1月27日

第一号議案 2022年度『街の灯』支援事業 対象
事業の決定

第二号議案 3ヶ年中期計画進捗状況とNGO支援
事業の方向性について

第三号議案 2022年度事業計画・予算の策定に向
けて

5回目 3月15日

臨時開催 2022年度以降の組織運営について

6回目 3月28日

第一号議案 2022年度「NGO組織強化支援」の
継続支援審査

第二号議案 2022年度『街の灯』支援の継続
審査

第三号議案 2022年度暫定予算案と中期計画骨子

・中期計画策定

役員4名と事務局員による中期計画委員会を11月に設置。外部アドバイザーと監事の助言を受けながら、定期的なミーティングのもと中期計画を策定した。

・諸規程の作成と改訂 着手出来なかった。

2) 広報/ファンドレイジング/支援者対応

●「仏教に根ざした国際協力 NGO」としての知名度が向上する。

- ・オンラインセミナーの後に寄付の呼びかけを行っているが、時局的な課題でないとアクションにつなげることができずにいる。
- ・「お寺と100年後の未来」や『街の灯』トークが団体名の名前の周知につながった。
- ・戦略的な寄付の呼びかけができなかった。
- ・SDGsについての講義依頼が数カ所からあり、またその後に機関誌や書籍で紹介してもらう機会を得た。
- ・SNSはインスタグラムを開始(11月)。イベント情報発信に活用。

●支援者数を増やす

ニュースレターなどの発行物が遅れたため、お便りの頻度が落ちている。対面でのご挨拶や集まりが持てないぶん、お礼状等のお便りやメールでのコミュニケーションに務めたが、より注力の必要がある。

寄付者数はほぼ横ばい。マンスリーサポーターは微増。会員は、年度末に未納の方との連絡をとった結果もあって、退会者19名となった。一方で、10名の新規入会者もあり、特に女性の参加が目立ったのは、これまでになかった広がりを生んだと言える。

・寄付者数推移

	寄付者人数
2021年度	477人
2020年度	463人
2019年度	376人

・物でお布施参加者数推移

	ハガキ切手	ブックオフなど	バザー品など物資
2021年度	45人	30人	34人
2020年度	38人	20人	24人
2019年度	48人	21人	29人
2018年度	34人	16人	34人

・マンスリーサポーター「結募金」参加者数

	結募金参加者数
2021年度	36人
2020年度	28人

2019年度	16人
--------	-----

・会員状況

入会者数：10人(特別賛助1人、個人9人)

退会者数：19人(特別賛助3人、法人1人、個人15人)

2022年3月31日現在

特別賛助会員(24人)

法人会員(55人)

賛助会員(1人)

個人会員(180人)

合計 260人

3) ネットワーキング

(1) 専門委員制度

専門委員の集いを開催し、専門委員との交流の活性化に努めた。

・専門委員のつどい(オンライン)

「日本のNGOとして気候変動対策を考える」

実施日：12月11日

講師：深草亜悠美さん(国際環境NGO FoE Japan)

(2) 他団体への協力/参加

仏教NGOネットワーク 松本(理事)

開発教育協会 枝木(評議員)

全日本仏教会 枝木(国際交流審議委員会委員)

浄土宗平和協会 枝木(専門委員)

▼職員

事務局長 枝木美香

NGO支援事業課長 井上団

教育・交流事業主任 寺西澄子

アーユス仏教国際協力ネットワーク 中期事業方針案（2022-24）

感染症の蔓延により経済活動や人的交流が制限され、財政的にも精神的にも不安が募る日々が続いています。この間、経済格差は広がり、気候危機もますます現実味を帯びる一方、突然の政変による政情不安や国家間の紛争まで勃発しました。同時にヘイトクライムのように非寛容な対応で異なる民族や属性、考え方を持つ人々を排除する動きも大きくなっています。不安が蔓延すると、個々の希望よりも全体の安定を求めたくなるものですが、その陰では、夢や希望を持つことを諦めざるを得ない人々がいること、その思いを発することすら許さない風潮が生まれやすいことを忘れてはなりません。

アーユスが協力する NGO は、そのような中で特に光が当たらない人々に光を当て、明日への希望が持てるよう支えています。社会的に注目されることなく、報道からも援助からも取り残されている人々への支援活動に地道に取り組み、アーユスはそれらの NGO を通じて取り残されている人々が前に進めるよう、さらなる光を当てています。

アーユスは、「すべてのものは互いに関係し合い支え合っているという仏教の縁起の法」の元に、遠くの国の困難であっても、それには私たちの存在も関わっているという思いでこれまで活動を続けてきました。またそのような課題が生まれる原因を社会の構造と人々の心の両面に見出して、NGO の活動を応援するだけでなく、多様な視点とともに社会課題を自分事として考えられるよう研修や啓発活動、情報発信にも力をいれてきています。

民族の違いや国境を越えて現地の人々と共に社会課題に取り組む NGO は、日常生活で知ることのない生の情報を教えてくれ、また社会の仕組みを気づかせてくれます。仏教者は、偏りがちな私たちの考え方や心の有り様に揺さぶりをかけて、広い視野で考えるきっかけを与えてくれます。これからも、NGO・仏教寺院とその関係者・一般市民をつなぎ、光が当たらないところに光を当て、希望を見出しづらい社会の中に小さくても風穴が開くことを願い活動を続けていきたいと思えます。

SDGs は、「我々の世界を変革する」と大きく謳っています。そのためには一人ひとりが動くこと、動いている人とつながることが大切ではないでしょうか。分断や乖離、格差が進む社会は、私たちの命を生かしている他の命を排除することになり、ひいて

は私たちの命までも脅かしかねません。今、時代は改善を待っているだけでは、何も変わらないところまできています。今ひとりひとりが動かなくては、これからの世代に残す負の遺産が甚大なものになるでしょう。コロナ禍を通じて、財政的にも精神的にも苦しくなった人々が多いからこそ、支え合いの輪を広く強くし、多様な人々をつなぎながら、それぞれが持っている資源、一資金・情報・物資・知恵などを巡らせて、知り合う、学び合う、必要とするところに有機的に届けられるよう、アーユスはこれまでの経験を最大限に発揮したいと思えます。

1. 社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせる専門性を持った国際協力 NGO をめざす。

アーユスがハブとなり、仏教関係者／寺院・NGO・専門委員・市民の間に、情報／知恵／資金・物資を必要となる場所へ巡らせます。アーユスは、つなぐ人々を応援し、孤立させず、また安心して活動できるよう支えていきます。市民による活動を底辺から支えてその活性化に取り組んでいきます。

目標 1 必要となる場所に必要なものを回すことが出来る。

目標 2 より良い知恵、資源を巡らせる専門性を持った国際協力 NGO としての認知度が高まる

目標 3 アーユスの協力により活性化した市民活動や団体がある。

目標 4 多セクター間の共同事業が開催される。

2. 不当な支配や抑圧、格差、差別、紛争、人権侵害などから困難を抱える人々の中でも、特に光があたっていない人々や課題に光を当てている活動や、活動している人々を応援する。

紛争や災害などが起きた当初は世界の耳目が集まっても、報道が少なくなるにつれて社会の関心が薄れる事例は後を絶ちません。しかも、現場の困難な状況は改善されず、事態は悪化してさらなる支援が必要な場合も多くあります。

アーユスは光があたらないところに光をあて、光が当たらない要因や社会構造もあきらかにして、取り残される人々がいらない社会をめざします。

目標 1 協力している団体／事業に光があたり、その活動／団体への注目が集まる。

目標 2 アーユスが光を当てる人々や課題が増える。

3. アーユスに関わる人々をつなぎ、共に思

考が揺さぶられる多様な視点を持てるよう、情報発信や交流を増やす。

アーユスに関わる寺院関係者・専門委員・NGOをつなぎ、社会課題を多角的な視点をもって考えられるような発信やイベントを広く一般に向けて行います。また、それぞれが互いの取り組みへの関心を高める機会をつくり、協力関係がいっそう活性化することをめざします。

目標1 命の繋がりをグローバルに考えたり、持続可能な社会を志向する人の環が広がり、アクションが増える。

目標2 仏教者およびNGOの言論プラットフォームができる。

4. より多くの「光が当たらないところ」に光を当てるために、寄付先や連携先としての信頼度を高め、アーユスの活動資金の安定化を図る。

設立以来30年近くを経て、社会や支援者の状況も変わりました。より多くの課題や人びとに光があたり、寛容な社会づくりに貢献できるよう、アーユスの財政基盤の強化は急務となっています。仏教の精神に根ざした活動に共感する人たちの輪を広げ、資金や物資の面のみならず、情報発信に協力して下さる方や活動への参加者を増やします。

目標1 安定した収入基盤ができる。

目標2 新規協力者が増える。

目標3 一般市民のアーユスの活動への参加が増える。

目標4 法人支援者が増える。

5. 次世代の仏教者や市民がアーユスの担い手となる仕組みをつくる。

組織運営を担う人材の世代交代ができるよう、より多様な世代が参加できる仕組みを作ります。また、既存の役員・会員・支援者が参加しやすい、より開かれた組織をめざします。

目標1 各理事が一事業を担当制に移行する。

目標2 30 - 50代の参加者が増える。

目標3 理事・専門委員の交替の制度ができる。

2022年度に向けて

2022年度より新しい中期方針のもとに活動を進めます。これまで、アユスのネットワークを活かして、仏教者・NGO・一般市民をつないできましたが、その魅力をこれまで以上に発揮することを、新しい中期方針でめざします。それにより、社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせ、多様な人たちが社会課題に取り組めるよう底辺から支えていきたいと思えます。

また引き続き「光が当たらないところに光を」をテーマに、取り残されている人たちが1人でも減るよう、NGOとの共同に力をいれます。この活動が広がるためにも、アユスの財政基盤の安定化が急務です。これまでの支援者の高齢化が進む中、より開かれた組織となり、多様な人たちを繋ぎながら、仏教の精神に根ざした活動に共感する人たちの輪を広げていきます。

1. 社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせる専門性を持った国際協力NGOをめざす。

仏教者・NGO・市民をつなぐハブとしての役割が果たせるよう、基盤を整える1年とします。そのために、関係者が必要とするもの提供できるものなど情報を収集することや、アユスが相談先として認知されるよう、情報発信に務めます。

2. 不当な支配や抑圧、格差、差別、紛争、人権侵害などから困難を抱える人たちの中でも、特に光があたっていない人たちや課題に光を当てる活動や、活動している人たちを応援する。

これまで通りの資金協力を続ける一方で、アユスらしいNGO支援事業のあり方を再検討します。またセミナーなどでの情報発信を通じて、資金協力でない方法でも協力し、少しでも多くの人たちに光があたるよう取り組みます。

3. アユスに関わる人たちをつなぎ、共に思考が揺さぶられる多様な視点を持てるよう、情報発信や交流を増やす。

オンラインや対面でのセミナーやイベント、ウェブなどの媒体を活用した情報発信や交流を定期的に行います。特に、ミャンマーやアフガニスタンなど、前年に注目した情勢のその後の動向を注視し続けます。一方で、ロシアのウクライナ侵攻など、時宜にあったテーマを軸に核利用や非暴力の外交手段、または民主主義など、今後の日本が抱えると思われる課題

について、思考が深められるような場を作ります。

また福島の実験などを軸に、持続可能な社会づくりに向けた取り組みを学べる働きかけを続けます。

4. より多くの「光が当たらないところ」に光を当てるために、寄付先や連携先としての信頼度を高め、アユスの活動資金の安定化を図る。

財政基盤の安定化に向けて、ファンドレイジング戦略を立てて、支援者の拡大とフォローに努めます。それにはプロボノなど外部のリソースも積極的に取り入れ、アユスの経験値も高めていきます。

また12月をファンドレイジング月間として、集中的にファンドレイジングに取り組みます。そのためにはファンドレイジング戦略だけでなく、アユスの魅力の言語化も進めていきます。

5. 次世代の仏教者や市民がアユスの担い手となる仕組みを作る。

活動の幅が広がり、組織運営が盤石なものになることをねらって、役員と事務局の共同体体制を強化します。またインターンシップ制度が来年度から始まるよう、準備を進めます。

役員・専門委員の交代がスムーズに行えるよう、制度の見直しを図ります。

※事業名称と構成の変更

新規中期計画のもと、ネットワークの役割をより発揮していくために、「教育・交流事業」を「研修・ネットワーク事業」と名称を変更し、その中に新たな取り組みとして「ネットワーク推進事業」を行います。

これまで、「NGO支援事業」の中で他団体／ネットワークへの参加や、キャンペーン賛同をしていましたが、これも「ネットワーク推進事業」の中に入ります。

1. 国際協力等を行うNGO・市民団体への助成・研修・表彰等の支援、及び紛争・災害時の緊急救援（NGO支援事業）

国際協力に取り組むNGOの組織強化を支援するとともに、NGO・NPOと連携し、光が当たらないところに光を当てる活動に協力して、平和や人権のための活動を推進する。

1) NGO組織強化支援

国際協力NGOが自立した経済基盤を築き、組織

として円滑に活動できる運営管理や事業遂行の知識、技術、ノウハウを身につけられるように、組織強化に資する活動を支援する。

2022年度は、下記の2団体を支援する。また2022年度中にこの事業の見直しを行うため、2023年度からの新規支援団体の募集は実施しない。

○新規支援：JFC ネットワーク

○継続支援：アクセプト・インターナショナル

2) 『街の灯』支援

2020年度に始まったプロジェクト支援制度。誰一人取り残さない社会をめざす「持続可能な開発目標(SDGs)」の概念を尊重し、日本の国内外で「光があたらない」活動に取り組むNGO/NPOに原則3年間協力する。2023年度からの支援団体の募集を行う。支援額の上限は50万円。より充実した支援事業となるよう、プログラムの強化を図る。

○新規支援(2022年度～)

・「日韓みらい若者支援事業」アジア・コミュニティ・センター21

・「ふくしま移住女性エンパワメント・プロジェクト」福島移住女性支援ネットワーク

○継続支援

・「ミャンマーでの人権侵害における日本のビジネス関与の実態把握と回避」メコン・ウォッチ

・「アフガニスタン・ピースアクション! 平和教育と地域住民による平和の取り組み支援」平和村ユナイテッド

・「水俣市内外での水俣病患者を対象にした『相談サロン』の実施」水俣病センター相思社

・「カーボデルガド州テロ被災者支援および平和教育活動」モザンビークのいのちをつなぐ会

3) 時局対応支援

自然災害や紛争時に、被災地での救援・復興活動が迅速にかつ円滑に行われるような支援を行う。また、国際協力活動を進めるために必要と思われる提言・キャンペーン活動などが実施される場合にも協力する。

2021年度から協力しているミャンマーでおきたクーデター関連の活動には引き続き参加する。国内で自然災害がおきた場合にアユスへの要請や支援申請があった場合は、「国内災害支援規程」に基づいた対応を行う。

5) 東日本大震災・脱原発支援

東日本大震災から10年以上が経ち、被災地への関心度が低くなる中、東北(特に福島)で起きたことを自分たちの問題として受け止め、原発に依存しない持続可能な社会の実現に向けた取り組みを支援する。その他、原発事故による悲劇を繰り返さないために、地域の力を活かすための諸活動を応援し、学びを発信する。

6) アユス賞

日本の国際協力NGO活動で多大な功績のあったNGO関係者に対してNGO大賞(茂田賞)、今後の国際協力NGO界を支えていくことが期待される有望な人材に対してNGO新人賞(奨励賞)、さらに、仏教の縁に基づいた国際協力や地域づくりを志し、アユスの活動に対する多大な貢献や協力があつた寺院もしくは個人に対して特別功労賞をそれぞれ授与する。

授賞式は、COVID-19の感染状況に応じて対面もしくはオンライン配信を組み合わせで開催する。

2. 国際協力及び社会貢献などに関する広報、普及啓発、教育研修及び相互交流(研修・ネットワーク事業)

仏教者・NGO関係者、市民が出会い、学び合い、協力しながら、より良い世界のあり方を実践的に探る。

1) 研修・研究・啓発

中期方針に定めた「社会課題解決のためにより良い知恵、資源を巡らせる」「光があたっていない人に光をあてる」「関係者をつなぎ思考が揺さぶられるような多様な視点を持つ」ことにつながるセミナーや研修会を企画・実施し、アユスの独自性をもった学び・交流の場として定着することを目指す。

(1) セミナー・啓発

・お寺と100年後の未来

持続可能な社会の実現を「100年後」をキーワードに、「お寺のできるSDGs」の事例を紹介してシステムチェンジの提案をすると同時に、セミナー参加者や実践者、NGO関係者がアユスを通じてつながる機会をつくる。

・『街の灯』トーク ～光のあたらないところに光を『街の灯』支援の協力先NGO等で活動する人をゲストに話を伺い、アユスが「光を当てたい」と考えている課題を広く知らせて賛同を募る。

・『街の灯』トーク ～世界の現場から

時局対応支援で協力した／している事業の現状を伺い、継続的に関心を持ってもらう機会をつくる。

・めぐり・めぐる・まなび

アユスが目指す「(情報／知恵／資金・物資を) 巡らせている」取り組みを紹介し、ネットワークを広げる。

・100分 de ○△□～ Deep 国際協力

講師（専門委員など）による時事問題や専門分野に関するセミナーをおこない、NGOが取り組む課題の背景や構造的な問題への理解を深めるとともに、参加者が意見交換のできるシリーズを実施する。

・「KOREA こどもキャンペーン」への参加

「市民交流による北東アジアの平和構築」を目指した、子どもの絵画交流、大学生ピースフォーラムの企画と実施に参画する。

・フィールドワーク

可能な範囲で研修と連動させて実施。

(2) 研修会

・NGO 向けの研修

・備災・防災などお寺の役割についてのセミナー開催を検討

2) ネットワーク推進

(1) NGO・寺院・市民ネットワーク

・協力先 NGO・関係寺院の情報収集と共有システムづくり

・相談対応

・他団体との連携

(2) 多様な人が語り合う場～言論プラットフォーム

・多様なセクターの人たちが発言できる場作りを模索し (Web、紙面、音声ほか)、専門委員や会員の協力を得ながら情報発信のトライアルをおこなう。

・アユスの活動に関心を持つ特に若手の仏教者の発掘を進める

・専門委員の会報誌やウェブへの寄稿、セミナー等の講師依頼の機会を作る

(3) 交流

・交流会 / 定例会

東海、関西を含め、会員・支援者・NGO と交流を深める企画をおこなう。状況に応じて、対面の場としてフィールドスタディなども実施する。

・NGO ランチトーク (毎月 2 回)

2021 年度から始まった企画。毎月 2 回、NGO に

関する 이슈について自由に意見交換しあう場を持つ。

・専門委員の集い

アユスと専門委員、および専門委員同士の交流を深め、NGO を取り巻く国内外の情勢や日本社会が変化する中で市民社会としてできること、NGO が果たすべき役割等について、問題提起・情報共有・意見交換を行う。

(4) 寺院／地域との協働

相談や問い合わせに積極的に対応する。

3) 開発教育

・ニュースレターの発行を年に 2 回とし、それ以外には活動報告書を作成して送る。

・施本を年 4 回発行し、頒布数が伸びるよう広報にも力をいれる。

4) 普及事業

物品販売や執筆講演により、アユスの活動を広く広める。

3. 組織運営・広報

1) 組織運営

通常業務の他、以下の活動に取り組む

・NGO 組織強化支援を中心に NGO 支援事業を見直す

・インターンシップ制度の確立

・中期計画のモニタリング

・理事／専門委員制度の見直し

・理事会と事務局の共同体制の推進

2) 広報／ファンドレイジング／支援者対応

2022 年度は、これまでの大口寄付が期待できないため、赤字決算になる見込みが強い。その赤字を少しでも少なくし、3 年後に財政基盤が安定するよう、寄付を増やすことに注力する。

そのためにファンドレイジングにはこれまで以上に時間をかけて取り組む。

・ファンドレイジング戦略の策定

・ファンドレイジング月間の実施

・クラウドファンディングへの挑戦

・セミナーの参加者フォローの徹底

2021 年度監査報告

2021 年度 監査報告書

特定非営利活動法人アークス仏教国際協力ネットワークの
2021 年度決算について、監査の結果、事業は適正に実施さ
れ、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と
認められる会計原則に基づいて作成されていることを認め
ます。

2022 年 5 月 24 日

監事 多賀 俊二 

監事 池田 未樹 

2022 年度アーユス役員

(2022 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日)

<理事>

大橋正明 (聖心女子大学・国際協力 NGO センター)

神田浩史 (泉京・垂井)

熊岡路矢 (日本映画大学教授)

菅原智之 (浄土真宗本願寺派高林寺)

瀬野美佐 (女性と仏教・関東ネットワーク)

遠山章信 (浄土真宗本願寺派正福寺)

中平了悟 (浄土真宗本願寺派西正寺)

中村絵乃 (開発教育協会)

福田行慈 (浄土宗本誓寺)

本多静芳 (浄土真宗本願寺派万行寺)

松本智量 (浄土真宗本願寺派延立寺)

水谷浩志 (浄土宗法雲寺)

持田貫信 (日蓮宗本久寺)

<監事>

池田未樹 (池田未樹税理士事務所)

関口宏聡 (セイエン)

顧問

岸野亮淳 (浄土宗西山禅林寺派恵光寺)

十河 章 (真言宗善通寺派志度寺)

事務局体制

事務局長 枝木美香

NGO 支援事業課長 井上団

研修・ネットワーク事業主任 寺西澄子

2022 年度アーユス専門委員

(敬称略：五十音順)

浅川和也 (明治学院大学) 平和教育、対立・紛争解決・英語教育

雨森孝悦 (日本福祉大学) 非営利組織論、マイクロファイナンス

池住義憲 (半田常滑看護専門学校) 平和学、国際協力、地域開発、地域保健

池田未樹 (池田未樹税理士事務所) 国際租税

石井宏明 (パスウェイズジャパン) 難民支援、NGO / NPO

稲場雅紀 (アフリカ日本協議会) 世界の社会運動、

アフリカ、国際保健政策、HIV/AIDS、感染症対策

今野泰三 (中京大学) 中東政治学、政治地理学、平和学、パレスチナ/イスラエル研究

上村英明 (市民外交センター) 人権問題

大橋正明 (聖心女子大学) NGO/NPO 論、南アジア地域研究

甲斐田万智子 (国際子ども権利センター) 子どもの権利、児童労働、人身売買、性的搾取、開発教育、ジェンダー、多文化共生

郭辰雄 (コリア NGO センター) 外国人の人権保障、多民族共生

柏崎正雄 (アカー) 性的指向・性自認、LGBT、HIV/エイズ

川橋範子 (国際日本文化研究センター) 宗教とジェンダー、フェミニスト人類学

神田浩史 (泉京・垂井) まちづくり、アドボカシー、水、フェアトレード、国際協力、環境、食・農など

木口由香 (メコン・ウォッチ) 大規模開発による環境社会影響の防止・軽減、メコン河流域の人々の環境・社会問題の映像での記録など

金敬黙 (早稲田大学文学学術院) 平和研究、東アジア市民社会、トランスナショナル、グローバルアジア研究

沢田貴志 (港町診療所) 保健衛生・HIV/AIDS、外国人の保健医療

釈徹宗 (相愛大学) 比較宗教思想、宗教文化

神仁 (全国青少年教化協議会) 仏教教育、臨床仏教

関口宏聡 (セイエン) NPO 法人制度

田中優 (未来バンク) 環境、平和、社会的金融

田中好子 (パレスチナ子どものキャンペーン)

パレスチナ問題、中東和平、難民など

寺中誠 (東京経済大学) 刑事政策論、人権論・国際人権法 国際刑事法

土井佳彦 (多文化共生リソースセンター東海) 多文化共生、地域日本語学習支援、災害時外国人対応

中村絵乃 (開発教育協会) 開発教育

林達雄 (アフリカ日本協議会) 保健、災害 (干ばつ)、気候変動

深草亜悠美 (国際環境 NGO FoE Japan) 気候変動、エネルギー

古沢広祐 (國學院大学研究開発推進機構) 環境社会経済学、持続可能社会論、有機農業・食糧農業問題

星野哲 (立教大学社会デザイン研究所) ライフエンディング (看取り、葬送、医療・介護、寺院など)

本田徹 (シェア=国際保健協力市民の会) 国際保健協力、公衆衛生、内科臨床

源由理子 (明治大学) 評価研究、社会開発論

目加田説子 (中央大学) 国際公共政策、NPO・NGO、非人道兵器

山本直輝 (イブン・ハルドゥーン大学文明対話研究所) イスラーム思想・社会運動